

# テーマ別科目 「古代と美術」及び「中世美術」の授業実践

文学芸術系非常勤講師 五十嵐 ミドリ

## Report on “Art and Antiquity” and “Medieval Art”

IGARASHI Midori

### 1. 古代と美術

原始時代の石器のかけらが、不要になった廃棄物として大量に残っていることから始めて、西アジア、エジプト、ギリシャ、ローマまで、今に残る遺跡、遺物、美術品をスライド、教材掲示装置、ビデオを見ながら、古代から何が残ったか、一方現代からは何が残るのだろうかを問いかけた。

試験では、美術作品の設問の後に、「あと何百年か経った時、私たちの時代（20-21世紀）から（一）何が残ると思いますか？（二）何を残したいですか？ 考古学的なもの以外（文学、音楽、自然…）でも可」と問いかけてみた。（一）に対しては、原発、産業廃棄物、プラスチック製品、コンクリート、道路と、およそ美しくないものばかりが目に見えようで、未来のヴィジョンは暗澹たるものばかりだった。（二）何を残したいかの方は、大多数が自然、緑、空気といったすがすがしい環境を求めている。今、何が緊急事かを問えば、「芸術より自然」の時代であろう。原発建設反対、諫早湾干拓、金沢では辰巳用水問題など、行政が市民の意思に耳をかさないで突っ走る態度に、市民の方も疲れてしまったとしか言いようがない。最近では旧金沢大学植物園（城趾）の草木が徹底的に取り除かれて、池は干上り、モリアオガエルもイモリも皆いなくなってしまった！こんな怒りをどこへぶつけるべきか。

「効果的な市民運動のやり方」があるならば、講義に取り入れてもらいたいくらいである（既に存在するのかもしれないが…）

午後の講義の「中世美術」に比べると、あらゆる分野の人に向けた内容であり、現実の生活と多少は結びついていたので、あまり退屈せず聞いてくれたと思う。出席をとったこともあり、出席率はよかったし、途中放棄する人も少なかった（58人中4人）。

### 2. 中世美術

西欧キリスト教美術を、初期ローマ時代から、フランス、アイルランド、イギリス、スペイン、ドイツの11世紀辺りまで辿った。個人的に私は中世美術専門なので、中身は濃いはずだが、歴史系の学生を除くとあまり親しみのない内容らしく、午前中の「古代と美術」に比べると、出席率はよくない。途中で放棄する人もやや多かった（46人中4人）。スライドの時だけでなく、話を聞きながら眠っている人が目立った。中世美術に関してはもっと興味を湧き立たせる工夫が必要だと痛感している。しかし、面白くなければ講義ではないという考えには、私自身、徹しきれないでいる。

1998年度は、今年時間が足りなくなって、すっ飛ばしてしまった11-12世紀のロマネスク美術を中心に、13-15世紀のゴシック美術も加えて、多少視点を変えながら、丁寧に見てゆく予定である。

### 3. 総括

城内にいた頃から、実技を2回行っている。今年は自画像1枚と、風景画1枚を課題とした。けっして指

導は行わない方針で、皆で描く楽しさ、あるいは苦勞を味わうためと、気分転換のためである。1枚20点の配点だが、上手下手、手抜きでせいぜい3-4点しか差をつけない。2回の実技の時間を取ると、講義の範囲を狭めるしかないことや、実技の説明や予告、展示と返却で、またまた時間を取られる。絵を描くような教室とは言いがたい等々、かなりつらいものがあったので、今年はずいぶん愚痴をこぼした。そのせいか、試験用紙の最後のご意見欄には「美術の実技は続けてほしい」というものが圧倒的に多かった。絵が描けるから2年続けて美術の講義を取ったという人もいたし、午前、午後通しで取っている人もいる。単位のためだ

けでなく本当に絵を描きたい人がいるという事実は、私には何よりもうれしかった。彼らの気持ちを大事にしたいと思う。実際、遅れたり課題を間違えるのは、ごく少数である。9割以上の学生はきちんと決まりを守って作品を提出した。教室でも、校庭でも、無心に絵を描いている彼らの姿を見ていると、大学も受動的に講義を聴くことから、「体験型」に方向づけられているような気がした。

1998年度から、「人物クロッキー・水彩」の講義が始まるようで、私の任務も終わったと、実はほっとしている。